

## 『幼稚園の現場から』

### 32・幼稚園の音楽活動その3（コード奏法）

原町幼稚園園長 鶴谷主一（静岡県沼津市）

#### ピアノの苦手な先生急増！

幼稚園の先生というピアノを弾いたり歌を歌っているイメージがあると思いますが、最近では弾けない先生多くなってきました。

保育士資格や幼稚園教員免許を取得する際には器楽演奏（ピアノ）の単位は必要ですが、そのハードルは年々低くなってきています。

最近の保育士不足、教員不足の影響もあり、保育園はもともと無いところが多いのですが、**幼稚園でも採用試験からピアノ伴奏を外さないと学生が集まらない**という悩みもあります。

私が原因の一つだと思っているのは、昭和の時代には女子の筆頭だったピアノのお稽古は激減し、幼稚園児の習い事は、体操教室やスイミングなどの身体系が主流になっています。

そして幼児教育系の大学・短大等（以下養成校）に入学してはじめて鍵盤にさわる人が多いからだと思っています。

そんな事情もあって各幼稚園の先生の演奏技術もじわじわと落ちてきて、保育園に至っては**保育室から歌声が消える**というような事態も起こってきているのです。

もちろん、ピアノに限らず音源（既製の音源や伴奏を録音するなど）を使っていくことで、ある程度のレベルは保てると思いますが、子どもたちの豊かな音楽体験を担保するためには、その場で保育者が弾くということが大きな意味を持つことは言うまでもありません。ピアノに限らずギターなど、伴奏しながら歌える楽器なら同様の効果を得ることができることは頭に置きつつ、今回はピアノの演奏技術の習得について考えていきます。



#### 養成校での実態

養成校ではピアノ技術の単位を取らなければなりません。それはどのような過程で行われているのでしょうか？

私の園で、試験的に「ピアノが苦手な学生集まれ！」というワークショップを開催したところ4大に通う3年生が集まってくれました。一様にピアノが苦手、**ピアノのことを考えるとお腹が痛くなる。もう考えたくない！**とかなりの苦手意識を持っていました。

学校ではどんな授業を受けているのか尋ねたところ「指定の曲を渡されて、できるまでひたすら一年間その曲をやっている。」という驚く話も聞きました。これでは苦手意識が積み重なって、ますます鍵盤に向き合う意欲は無くなっていくだろうと想像します。

文科省が改定してくれないとどうにもならないかもしれませんが、ピアノ実技の課程がクラシックピアノをベースとして組まれていて、学生に教授する側の先生方もクラシックピアノ出身の方が多い。その中で伝統のように行われてきた授業が**学生のピアノアレルギーを生み、ひいては保育の質を下けている根本的な原因がある**と考えます。

幼い頃にピアノを習った人なら、いきなり“バイエル”などの教則本を渡されても苦にならないでしょうが、初めての人には譜面も読めないところから一つ一つの音を追っていくなど、ピアノへの抵抗感も大きくなるってもんです。しかもやってみて楽しくない。

「小さい頃に習っていなかった」ということを前提に新しいカリキュラムを組んでほしいのです。やりようによっては**4年間もピアノに向き合えば、ある程度現場で使えるスキルを身につけることができる！**と私は考えます。ピアノ演奏はできなくても、歌の伴奏はできます！その方法を提案します。

## コード奏法をオススメ！

養成校の先生方も、学生も意外と知らないのが「コード奏法」です。ピアノでつまずいている方は、ぜひ知って頂きたい！

次の楽譜は中川ひろたか氏の「世界中の子どもたちが」という曲の3段譜とあって、上段がメロディー、中断下段が伴奏という構成になっている私たちがよく使う楽譜です。音符♪を見ると複雑に動いていますので、苦手な人が見たら「うわ〜無理」と思いがちですが、上段の上を書いてあるGとAmというアルファベットが『コード記号』です。

前奏から歌い出しまでGとAmのたった2種類しか使われていません。



Gが書いてある小節はずっとGのコードでリズムを刻んでいれば体裁は保てるので、Amが出てくるまでは、それをキープすれば良いのです。たくさんある♪は無視しても歌はうたえます。そんなところからスタートすれば苦手な人も取りかかりやすいでしょ？

## 鍵盤のきほん

基本を押さえておきます。

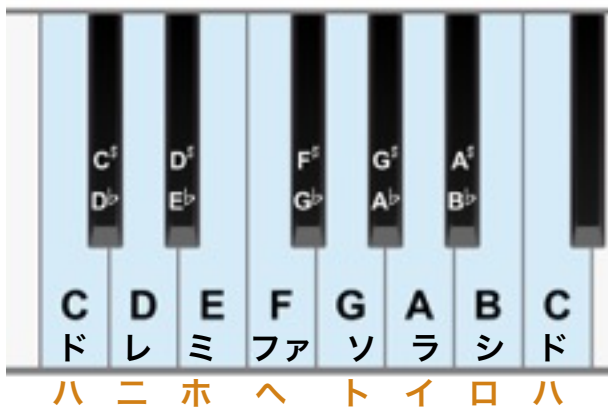
鍵盤は12個の音が1セットで、まん中を基本とすると、1セット上をオクターブ上、下をオクターブ下と決めてあります。ピアノの鍵盤を見るとずらーっとたくさんあるので目眩がしそうですが、12個の音のセットが並んでいるだけのことです。

12個の音はドレミファソラシと名前が付いているのは知っていますか？あれ？7個だ。あと5個は？ピアノの黒い鍵盤です。これは白い鍵盤の間にあるので、たとえばドとレの間だったら、ドの半音上という意味でド#（シャープ）を付けても、レの半音下という意味でレ♭（フラット）を付けて表します。どちらでも音は同じですが、和音の構成によって使い分けをします。

日本語ではドレミファソラシという音名に英語では CDEF GAB という記号がついています。「ドを弾いて！」というかわりに「Cお願い！」でも同じ意味です。

コードを使うためには、かけ算の九九と同じように覚え込んじゃうことが必要です。

まず、このCDEF GABをスラスラと言えるように覚えて下さい。



補足しておきますと、八長調とかト長調という言い方は、昔のハニホヘ・・・が残ったもので、現代だったらド長調、ソ長調と改定してくれば分かりやすかったんですが、初めての方には分かりにくくなってますね。覚えるしかありません。

## コードの法則を覚える

さっき覚えたCDEF GABは単音を表していましたが、コードは和音の塊に名前を付けたものになります。

ベースになる音から、最低3音を加えた和音、たとえばC（ド）をルートとすればEとGを加えて「Cのコード」になります。

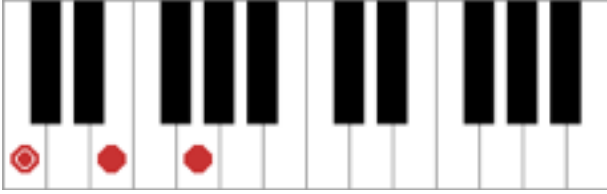
Cはドという単音を表しながら、Cコードという意味の、二つを表すことになります。

▶コードはルートの音（1番目）に3番目と5番目の音が重なって基本3和音できています。

通常白鍵だけを数えて《1-3-5》と言っていますが、黒鍵を入れるとルート（1番目）から数えて3番目は5つ上、5番目は8つ上の音のことになります。→《1-8-5》

▶次の図はCメジャーコード（明るい感じの和音）よくご存じのドミソの和音です。

## C



▶コードは1つの曲に何個か出てきますが、幼稚園で使う曲はなるべく黒鍵を使わないCメジャーが多いので、最初に覚えるコードはC、F、Gの3つが良いでしょう。弾いてみると分かりますが、お辞儀の音です。

▶基本のコードを示しておきます。

↓ルートの音=コード名

C = (ド + ミ + ソ)

D = (レ + ファ + ラ)

E = (ミ + ソ# + シ)

F = (ファ + ラ + ド)

G = (ソ + シ + レ)

A = (ラ + ド# + ミ)

B = (シ + レ# + ファ#)

▷これらはメジャーコード（明るい響き）と言います。半音を数えてみると1+5+8の法則で積み上がっていることが分かります。

▶次に転回形を覚えましょう。

コードの基本の3音は、どのオクターブ位置で押さえても同じ和音になり、コードとして成り立ちます。なので、次のように押さえてもOK！メロディーとバッティングしないように、弾きやすいように使い分けます。これを転回と言います。

## C



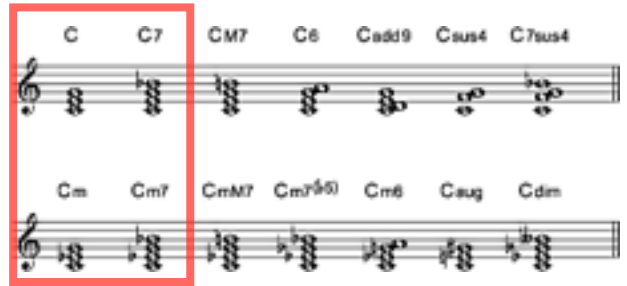
※第2転回=ミソドで押さえる

## C



※第3転回=ソドミで押さえる

## コードには種類がある

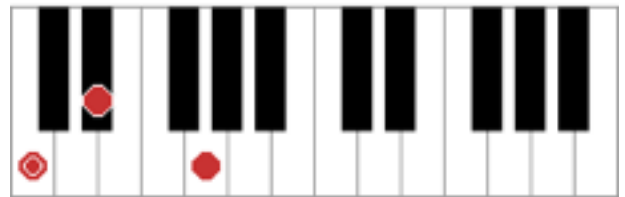


上の表でコードの種類は14パターン。ルートはCですが加える音によって名前が変わってきます。12個の音×14=168！そんなに覚えられませんよね。覚える必要はありません、たいてい使うのはC、C7、Cm（マイナー）ぐらいです。

▶コードに書いてある数字7、6、9は、ルートに対して何番目の音を加えるかということを表しているだけです。bが付いていると付いている音を半音下げる意味、#は半音上げる意味、♮は元に戻す記号です。

▶mはマイナー（寂しい響き）コードの意味で、3番目の音を半音下げるという意味で、《1-b3-5》もしくは《1-4-8》と数えれば押さえる場所が分かります。が、聞いてみて寂しげな響きが出ればOKでしょう。

## Cm



## コードはいろいろ使える

ここまで「コードってそんなにムズカシイもんじゃないよ！」って言いたかったのです。（紙面で伝えるのもなかなか難しいですね）そして、コードを覚えれば保育現場で使うピアノ伴奏もグッと楽になるよ！ということを強調しておきたいです。

ピアノに自信が無いから幼稚園の先生はあきらめます、という残念な声を減らしたいし、



逆に開き直って「弾けなくても保育はできる」というのも違うと思います。

最初に書いたように、子どもたちの豊かな音楽体験、情操教育の環境を用意してあげるのは保育者の義務だと思うからです。

さらに保育現場では、歌の伴奏だけでなく、一日のいろんな場面でも音楽を使います。

私の園では、毎月の誕生会で即興劇を行いますが、新卒の先生は、ピアノの音を効果音として使うことを初めて経験します。決まった曲だけでなく、BGM・効果音として電子ピアノを弾きます。

明るい場面ではメジャーコード、暗い場面ではマイナーコード、緊張感のある場面ではセブンスコードやディミニッシュコード、クライマックスの乱闘シーンはげんこつで鍵盤を叩いたり、グリッサンドを使ったり、多様に弾き分けています。

採用試験の時にピアノが苦手だとだたどしく弾いていた先生も1～2年の現場を経験すると見違えるように弾けるようになります！

苦手意識に縛られずに、鍵盤楽器という道具を操れるようになってほしいという願いを込めて、「コード奏法」をオススメしました。



▶参考になるサイトがいくつかあります。わかりやすいサイトを活用してみてください。  
検索→【ピアノ コード】

コードネーム奏法振興会  
<http://pianochord.info/>

ピアノコードの覚え方  
[http://www.piano-c.com/about\\_piano\\_chord/howtolearn.html](http://www.piano-c.com/about_piano_chord/howtolearn.html)



原町幼稚園 園長 鶴谷主一 (57)

1960年生まれ

1979年 都農聖愛幼稚園(宮崎県実家にて助手勤務)

1984年 彰栄保育専門学校にて免許・資格取得

同年 葛飾みどり幼稚園に教員として勤務

1989年 オイスカ香港日本語幼稚園に主任として勤務

1991年 原町幼稚園(妻の実家)に勤務

2002年 原町幼稚園園長として勤務→現在

HP : <http://www.haramachi-ki.jp/>

MAIL : [office@haramachi-ki.jp](mailto:office@haramachi-ki.jp)

Twitter : @haramachikinder

\*\*\*\*\*

「幼稚園の現場から」ラインナップ

第1号 エピソード (2010.06)

第2号 園児募集の時期 (2010.10)

第3号 幼保一体化第 (2010.12)

第4号 障害児の入園について (2011.03)

第5号 幼稚園の求活 (2011.06)

第6号 幼稚園の夏休み (2011.09)

第7号 怪我の対応 (2011.12)

第8号 どうする保護者会? (2012.03)

第9号 おやこんぼ (2012.06)

第10号 これは、いじめ? (2012.09)

第11号 イブニング保育 (2012.12)

第12号 ことばのカリキュラム (2013.03)

第13号 日除けの作り方 (2013.06)

第14号 避難訓練 (2013.09)

第15号 子ども子育て支援新制度を考える

第16号 教育実習について (2014.03)

第17号 自由参観 (2014.06)

第18号 保護者アナログゲーム大会 (2014.09)

第19号 こんな誕生会はいかが? (2014.12)

第20号 ITと幼児教育 (2015.03)

第21号 楽しく運動能力アップ (2015.06)

第22号 〔休載〕

第23号 大量に焼き芋を焼く (2015.12)

第24号 お話あそび会その1 (発表会の意味)

第25号 お話あそび会その2 (取り組み実践)

第26号 お話あそび会その3 (保護者へ伝える)

第27号 おもちやのかえっこ (2016.12)

第28号 月刊園便り「はらっぱ」 (2017.03)

第29号 石ころギャラリー (2017.06)

第30号 幼稚園の音楽教育 (その1・発表会)

第31号 幼稚園の音楽教育 (その2・こどものうた)

第32号 幼稚園の音楽教育 (その3・コード奏法)

\*\*\*\*\*